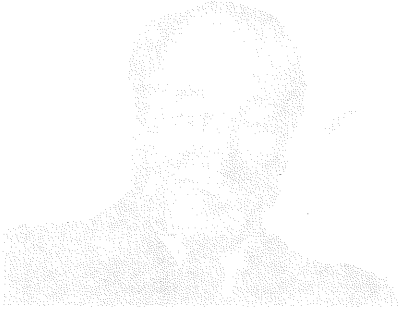


## 巻 頭 言



松下 正寿

日韓トンネル研究会名誉会長  
元立教大学総長



何という素晴らしい構想だろう。話を聞いて見ると「日韓トンネル」は未だ第一歩で、これが延長されてアジアとヨーロッパにひろがり、それが更にアメリカをもふくむ世界を一つにするトンネルらしい。

我々はよく「世界一家」という言葉を耳にする。立派な理想には違いないが交通のともなわない「世界一家」は考えられない。世界が「一家」になれるかどうかは一に世界が交通によって一家になれるかどうかにかかっている。然るに現代の技術はそれが可能であることを物語っている。

例えば明治の始め、日本に鉄道が出来た頃に誰が青函トンネルの可能性を考えたであろうか。本州と北海道を結ぶ道は船で行く以外には考えられなかった。然るに今では本州と北海道が鉄道で結ばれるのは時間の問題になった。

大昔、人間が猿から進化した頃は、人間の出来ることは極くわずかであった。人間と猿との差は極めてわずかであった。猿はそのままの猿である。然るに現在、人間と猿との差は極めて大きい。何故にこのような大きな差が出来たのだろうか。私は進化論を鵜呑みにしているわけではないが、この間には誰も答えていない。これは進化論を超越した問題だからである。私共は謙虚になる必要がある。そして進化論を振り廻す前に天地万物を創り給うた神の前に平伏して人間にのみ、この特殊な進化する能力を授かったことに感謝すべきである。

国際ハイウェイ・日韓トンネルの構想は国際文化財団の創設者である文鮮明先生のものである。我々は先ずこの素晴らしい構想に対して感謝しよう。そしてこの着想を実現するために努力しよう。